

視察報告書

1 観察日時 令和7年10月14日（火）10時00分～11時30分

2 観察先 真庭市議会

3 観察目的 所管事務の調査にあたり、他市議会の取組を確認

4 観察参加者 ・光成 良充 ・横山 裕太 ・松田 熱
・中田 浩二 ・田村 勝

5 観察概要

議会ICT推進委員会は、議長から調査・研究を依頼された「オンライン会議の取組について」先進地である真庭市議会へ取組状況を視察した。先日、津山市議会にも視察を行っていて、津山市議会との違いについても検討を行った。

オンライン委員会を開催するためにはどういった準備が必要か、委員会条例の改正、オンライン委員会運営要綱の策定、施設の改修、設備などについて伺った。

真庭市議会では、令和2年の総務省通知を受け、令和3年8月から検討を開始し、令和4年2月に全国市議会議長会から示された「オンライン委員会の開催に伴う例規改正検討結果報告」の条例改正案を基に12月に関係例規整備を本会議で可決されている。

まず、委員会条例で感染症、大規模災害、育児・介護を出席が認められる対象とした。委員会室で開催する全ての会議を対象とし、同時に会議規則、要綱の整備を行っている。対象者は会議に出席するもの全員とし、傍聴者は対象外としている。

オンラインで会議に出席を希望する者は、開催日の前日正午までに届出書を会議の長あてに提出することとしている。

オンライン委員会の開催を行った経験があり、その時にカメラ、音声の不具合があり進行上は問題なかったが反省が残り、オンライン環境整備の予算要求を行い令和7年3月に完成している。その後オンライン会議は開かれていない。

環境整備については、委員会室の音響設備改修、ZoomRoomsの導入、無線マイクの導入、映像編集システム（字幕表示）などに数千万円の資金を投入して整備している。

【質問事項】

・オンラインでの開催の対象を「感染症+災害+育児・介護」としたのはなぜか。
→感染症や災害時だけではなく育児、介護のやむを得ない事由で可能としたのは性善説で対処すべきであるとの考え方からである。

- ・オンライン委員会開催にあたって設備機器の導入、費用は。
→視察概要に記入済み。
- ・実際にやってどうだったか。メリット、デメリットは。
→デメリットは考えられない。メリットしかないように思っている。

6 所感

視察を終えてまず思ったことは、オンライン委員会は開催されないほうが良い。開催条件が大規模な感染症の拡大、大規模な災害の発生であるため、感染症のまん延、災害の発生はないに越したことはないからである。

しかし、何が起こるか分からない世の中であって準備はしておくべきであり、いつ何どきでも開催できるように年に1度は経験しておくべきだと思う。

赤磐市でオンライン委員会を開催するにあたり、会議規則、委員会条例などの改正を検討し、必要な設備の洗い出しなどを進めていくべきであると、視察を行ってより一層思いが強くなっている。

真庭市の例は特別であり、なるべく費用をかけず貸出可能な設備を利用するようにして、負担を軽くして、令和8年4月1日施行で進めていく考えである。

以上